

ベスト地球・海洋 SF ノミネート作品 あらすじ紹介

●新作部門

【国内小説・実写作品賞】

・『アクアポリスQ』（津原泰水、朝日新聞社）

海面上昇した日本。五角形の形をした巨大人工島アクアポリスは、水没都市Q市の沖合に浮かび、シーチューブで本土と繋がれ、量子コンピュータで完全制御されている。少年タイチが通うスーパーサイエンススクールで巨大な牛が目撃される。その学校で、タイチは不思議な裸の少年エンプティを見つける。その5年後、タイチの前に不思議な女ジェイが現れる……。陰陽師モノ。

・『宇宙捕鯨船バックス』／『ランデヴーは危険がいっぱい』／『ベテルギウス決死圏』（中島望、角川春樹事務所）

2086年、温暖化とテロリストによる南極核攻撃で海面が10m以上も上昇し、テロリストが投じた毒で海洋生物は死に絶え、地球人口は約30億人に減少している。51年前に異星人アンデロープ人と接触。4億人が地球に移住。進学校卒業間際の落ちこぼれ高校生の沖田正午、宇宙捕鯨船バックスの船長の娘亜衣を助けたことから、宇宙捕鯨船バックスに見習い鉾打ちとして乗り込むことに。

捕鯨船が宇宙船で、海棲生物が宇宙生物として登場している。

・『日本沈没 第二部』（小松左京、谷甲州、小学館）

日本沈没の25年後。世界に離散した日本人はパプアニューギニアやカザフスタンなど世界各地に入植し、現地社会と葛藤しつつ適応していった。国土を持たない日本政府はそのアイデンティティを失わないために、日本列島が沈んだ海域に人口100万人規模の巨大な人工島メガフロートを建設する計画を進める。ところが地球シミュレータによる環境変動予測で寒冷化が進行しつつあることが明らかになってくる……。

・『水妖の森』（廣嶋 玲子、橋 賢亀、岩崎書店）

オボロ森（妖魔の森）の《青の湖》に棲む水妖の少女ナナイは、大人に脱皮（文字通り）するための儀式として、不得手な陸上を通して光り輝く《銀色の湖》に向かわなければならないところ、人間に捕まってしまう。

この森には、《黒の湖》に棲む《暗き湖の主》、ばかでかい化け物魚ウラーが、唯一の糧である水妖を年に一度の機会に捕らえるため、《黒の湖》の島民を送り出していたのだ。

ウラーはある時汚染されてしまった《黒の湖》の唯一の生き残り、水妖を食べただけ産卵し、それが孵った自分の子供をも食料としていた。ウラーは水妖を狩らせるため、卑怯にも島民の子供たちを人質にしていたのだ……。

水妖、ウラー、レンバル島の生態がそれぞれ興味深く描かれている、貴重な子供向け作品。

・『日本沈没』（樋口監督）

リメイク映画。沈没メカニズムとしてメガリス（スタグネーションスラブ）の崩壊、デラミネーション、地殻内微生物など新しい地球科学の知識が使われており、地球深部探査船「ちきゅう」

などが生出演する。なんと日本列島の沈没を阻止するため、引退した「しんかい2000」を復役させ3700mという圧壊深度を超える決死の潜航が行われる……。

【海外小説・実写作品賞】

・『グエムル 韓江の怪物』

ソウル市内を流れる韓江で米軍の化学廃液により突然変異した生物が市民を襲う……。日本では公開期間が短く、また、ネット上でパトレイバーのパクリと書かれたりしたのですが、実際には非常に高品質の特撮で、というか、日本の特撮にかなり差を付けてしまったと言っていいほどの素晴らしい出来だったのですが、どうも負けを素直に認める日本人が少なかったようで、日本での興行成績はよくなかったようです。

・『パイレーツ・オブ・カリビアン／デッドマンズ・チェスト』

幽霊船フライング・ダッチマン号は普段は海中を航行し、船員もハンマーヘッドシャーク型とかいろんな海洋モンスター風。幽霊船の船長デイヴィ・ジョーンズはヒゲがクラゲの触手というか。そのヒゲで船内のパイプオルガンを弾いているシーンはネモ船長みたい。巨大オオダコのクラークエンが帆船を襲うシーンを圧巻。

・『深海の雷鳴』（ジョー・パフ、ヴィレッジ・ブックス）

「原潜迎撃」シリーズの第2作目。2011年。ドイツと南アフリカがファシズムを復活させて世界戦争を始め、そこでセラミックス製耐圧殻により4000m以上の潜航深度の高性能潜水艦が戦いあうという設定。

0.1キルトンという戦術核兵器がどんどん使われ、潜水艦戦でも有効破壊距離内にどちらが先に核魚雷を到達させるかという、チェスカカーリングみたいな戦術。

かなり沈うつだがな、そこかしこに地球科学的な話が登場して、スクリプス海洋研出身の女性海洋アドバイザーが潜水艦内で活躍。2つの熱水噴出孔を利用した音響レンズで遠距離探査するなんて話が出てくる。

今回も、クライマックスで中央海嶺の中軸谷の溶岩流出地帯を舞台にした戦いが繰り広げられる。

【コミックス・アニメ作品賞】

・『交響詩篇エウレカセブン』（アニメ／コミックス）

住めなくなった地球から脱出した人々が入植した星。しかしその地表面は「スカブ・コーラル」で覆われ、地殻内から噴出する透明な「トラパー」が低地に溜まり、リフレクション・ボードでサーフィンのように滑空でき、空には謎の「スカイフィッシュ」が飛んでいる。

スカブ・コーラルからは、「LFO」と呼ばれる地球人類ではない何者かが作った過去の遺物が発掘され、それにコンパクトドライブCDを取り付けて人が操縦可能な人型機動マシンとして使用されている。

この星では、高濃度トラパーの異常発生とスカブ・コーラルの

活性化を伴う「コーリアン」(死の光/生命の卵)がたびたび出現する。かつて「サマー・オブ・ラブ」という史上最悪の大災害によって、塔をつなぐ通信・交通が大混乱した。

最初に発見された LFO タイプゼロ、ニルヴァーシュを、コンパクトドライブなしで操縦できる少女エウレカ、サマー・オブ・ラブの危機を救った英雄アドロックの息子レントン、この2人の出会いが物語の始まりである……。

・『銀色の髪のアギト』

300年後の未来、遺伝子操作の失敗によって意思を持った森が、人と都市を襲うようになってしまった世界。その中でも森と比較的友好的な関係を築けている中立都市でアギトは暮っていた。アギトは、廃墟の奥深くで偶然、ステイフィールド(永久生命維持装置)の中で眠る300年前の少女、トゥーラを目覚めさせる。トゥーラは人間の文明世界を再び復活させるという使命を背負っていた。……。

・『海の人』(越智 善彦、エンターブレイン)

時代設定は「海底2万里」と同じらしい。ノーチラス号風レトロモダンな潜水艦「ニシキ」と円盤型潜水艇「ワタリ」(マニピュレータ2本を持つ。ワタリガニ風)で沈船の財宝を回収している。そのお頭が銀色の髪と赤い目をしたヒロインの美国。昔、船が沈んでおぼれたところを人魚たちに助けられ、特異体質となって高い潜水能力を持つ。

美国たちは人魚の秘密を探しているのだが、同じく人魚の秘密を探している一行がいた。博物学者ギュスターブ・キュヴィレ、その助手の浦島海人、謎の人物ミスター・ロズウェル、博物館職員マチルダ・トンブソン。

海中転落した海人とマチルダを救助した美国らは、どうやら人魚の秘密は太平洋らしい、ということが分かって、太平洋に向かう途中、美国らの基地でありマスター・ネモが操る海底要塞アトランティスとランデヴーしたところで完/打ち切りとなっている。

レトロモダンな世界の描写もなかなかよくて、なぜ打ち切られたのか大変残念。やはり海洋SFは売れないというジンクスは健在か。

【ノンジャンル/クロスオーバー作品賞】

・『日本列島は沈没するか?』(西村 一、藤崎慎吾、松浦晋也、早川書房)

”科学的”にはとても沈みそうにない日本列島を、できる限り”科学的”に沈めるための試行錯誤を通じて、一般読者にワンダーな地球内部の姿や進化の歴史を楽しんでもらおうという本。

地震波トモグラフィ、SPring-8、地球シミュレータ、地球深部探査船「ちきゅう」などの新しいテクノロジー、さらには地震予測という課題に対し、研究者たちがいったいどのように取り組もうとしているかも紹介。また、33年前に出版された小松左京『日本沈没』が現実の潜水船開発と地震研究に及ぼした影響を検証し、さらに今後起りうる環境難民問題を予見した同作品とその他、沈没・洪水テーマを扱ったSF作品の役割を再評価してもらいます。

・『メタルカラー烈伝 温暖化クライシス』(山根一眞、小学館)

海洋関係では次のような記事があ。

[スマトラ沖地震] 深海底に巨大津波の正体発見

[地殻ドリル船ちきゅう] 海底穴掘削で地震究明

[GPS津波計] 台風の間でも津波の潮位を観測

[海洋レーダーの台風監視] 日本の海を守る底力

[救難飛行艇] 荒海にも着水し救命実現の設計力

[地球シュミレータ] 温暖化解明の超頭脳マシン

・『ガイアの復讐』(ジェームズ・ラブロック、中央公論新社)

なんとラブロックは現在進行している温暖化はガイアにとっても有害であると名言しています。以前は、ガイアが白亜紀にもっと高いCO2濃度を経験していることもあり、「ガイアが嫌がっている」なんて表現は見たことがなかったのですが。

ここでおいに注目されたのは、CO2削減対策として、今、直ちに効果を上げる実用的な方法としては原子力発電所が唯一としたところ。そのためにはラブロックは「世界中の高レベル放射性廃棄物を自分の私有地に引き受けてもいい」とまで言明し、グリーンピースなど環境保護団体と一戦を交えています。

●オンライン作品・同人誌賞

・『月からの手紙』(やまだようしろう)

月面(アリストアルコス)の発光現象、水星より内側に存在が予言されているヴァルカノイド小惑星帯、などをモチーフとした作品。

直径8キロと見積もられる小天体DOD-4013が南緯0.2度、東経67.5度のインド洋上空、315kmで爆発。もし爆発しなければ、インド洋に落下して白亜紀末期並みのカタストロフィーとなる場所だった。なぜDOD-4013が事前に探知できなかったか。また、どうしてDOD-4013はインド洋上空で爆発したのか、実はその前に月の「雨の海」にある虹の入江基地である異変が生じていた……。

・『"SPINKLES"スピנקルスの惑星 キャプテン・クロノの漂流記』(zenkoo)

惑星ゼトロスに棲息する車輪やプロペラ、スクリューを持った不思議な生物たち、SPINKLESとの出会いを美しいCGで描く。

・『さんごの住む町』(副島一也)

<しんかい6500>が引退し、深海調査艇<あさせ>として1000mまでの海底調査に従事している。そのパイロットが足の不自由な少女に出会う……。

●オールタイムベスト部門(ベスト海洋モンスターを投票下さい)

・ハアアーマン・メルヴィル「白鯨」(1851)の<モビィーディック>

・ジュール・ヴェルヌ「海底二万里」(1870)の大蛸<クラッケン>

・アーサー・C・クラーク「海底牧場」(1957)の巨大イカ<アルキテウティス>

食糧問題に直面した人類を救うために設置された世界連邦食糧機構海務庁牧鯨局のベテラン監視員ドン・バーレイ、宇宙で深い心の傷を負った元宇宙飛行士ウォルター・フランクリン、女性海洋生物学者インドラ・ランゲンバーグらの活躍を描く。

巨大イカの捕獲、原子カプラントを使った人工湧昇による肥沃化、プランクトン農場路線か牧鯨路線かの選択、鯨乳採取、シャチを牧鯨犬にする研究などが登場する。

・東宝映画「海底軍艦」(1963)のムウ帝国の守護神<マンガ>

戦時中、神宮司大佐を艦長とするイ号 403 は出航後に行方不明となる。20 年後、1 万千年前に一夜にして海底に沈んだムウ帝国から脅迫フィルムが届く。そこには行方不明だったイ号 403 の姿が。神宮司大佐らが南海の孤島で密かに建造している「轟天号」の建造を中止し、世界をムウ帝国皇帝陛下に返還せよというものだった。一笑に付した国連会議に対し、ムウ帝国はパナマ運河、ベニス、香港を破壊する。ムウの潜水艦を追跡する最強の原潜<レッドサターン号>(715)は水圧に押し潰されてしまう……。

・ロジャー・ゼラズニイ「その顔はあまたの扉、その口はあまたの灯」(1965)の板鯨魚竜<イクティザウルス・エラスモグトナス>(通称『イッキー』)

何人もの釣り師の運命をもて遊んだ、金星の大海原に潜む巨大魚竜イッキーとの死闘を格調高く描く、異星海洋冒険活劇。

・小澤さとる「青の6号」(1967)の<赤ハゲ>

少年サンデーで連載。太平洋中央の海底下 250mにあるマラコット海山の火口に「青のドーム」があり、海中航路の安全と救難を目的とした組織「青」の本局(円波局長)が置かれている。青の所属艦隊と、世界制覇を狙う多国籍企業マックスの戦闘艦<ムスカ>、浮遊式潜水艦基地<ストリーム・ベース>、<ヤマトワシター>(ボガー艦長)、赤ハゲとの戦い。

・畑正憲「ゼロの怪物ヌル/海から来たチフス」(1967)の不思議なかたまり<ヌル>

食糧問題に直面した人類を救うために設置された世界連邦食糧機構海務庁牧鯨局のベテラン監視員ドン・バーレイ、宇宙で深い心の傷を負った元宇宙飛行士ウォルター・フランクリン、女性海洋生物学者インドラ・ランゲンバーグらの活躍を描く。

巨大イカの捕獲、原子カプラントを使った人工湧昇による肥沃化、プランクトン農場路線か牧鯨路線かの選択、鯨乳採取、シャチを牧鯨犬にする研究などが登場する。

・ミヒャエル・エンデ「モモ」(1973)の巨大微生物<シュム=シュム・グミラスティクム>

時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語。そのごく一部に、実に濃い海洋でSFな描写がある。

研究船「アルゴ号」は、南洋の「さまよえる大旋風」を調査し、安全を確保するために、特別にアラモント鋼の一枚板で作られた船である。

一行は、生物を異常成長させる海域で、巨大なオバケクラゲの危機を突破し、さまよえる大旋風に接近していく。

落雷につぐ落雷! 荒れくるう風雨! 山なす大波と白くあわだつ水しぶき! アルゴ号は、エンジンというエンジンをフル回転させて、ついに到達した台風の目には、巨大な「シュム=シュム・グミラスティクム(通常は、トマトソースやみどり色のインクの中に見つかる微生物)」がいた。この巨大微生物が、台風を作り出していたのだ……。

・星野之宣「ブルーシティー」(1976)の海魔<コノドント群体>

謎の細菌と人類自決指令によって地上・海上の人類・生物が全滅。人類自決指令とは、細菌を殲滅して海の生物を助けるために、地上 2 万 m で水爆を大量に爆発させてオゾン層を破壊するというもの。残されたのは実験海底都市<ブルーシティー>の若き科学者 2 万人と子供 10 人。

オゾン層破壊に伴って海面が 30m 上昇し、深海生物が移動を始め、太古から生き残っていたさしわたし 500m の海魔『コノドント群体』が<ブルーシティー>を襲う。さらに水棲人類計画という恐ろしい陰謀が……。

・ブルース・スターリング「塵クジラの海」(1977)の<塵クジラ>

水無星と呼ばれるその惑星は、巨大な窪地に堆積した塵の海に独自の生態系を築いていた。塵鯨と惑星の秘密を執念で探る捕鯨船船長の物語であり、異星人との(痛い)愛を綴った作品でもある。

・田中英二「怒りの大洋」(1978)の<海水生命>

第一部は海に異常な現象が頻発していた。巨竜に沈められる貨物船、人間を襲う魚たち。海は一人のダイバーを通じて、厳しい警告を発する。第二部は海洋牧場計画を推進する海洋開発庁。その調査船に乗り組むオセアノートは海の警告を聞く。鯨の神メガロドンが計画に必要なイルカ達を襲う。第三部は大洋を浮遊する巨大な海上都市・ポセイドニアとトリトニアをめぐる海洋冒険活劇。ポセイドニアを狙うテロリストと水中救助隊の戦いを熱い筆致で綴る。

・大石英司「シーナイトを救出せよ」(1988)の<ブロッケン>の怪物>

国際謀略モノ。1963 年、20 億ドルを超える財宝を積んだ英海軍

ドレッドノート級試験艦<ベータ 10>4000 トンは、「ブロッケン・ゾーン」と呼ばれる海域で、50 ノットで泳ぐ 100 トンもの大きさの化け物<ブロッケンの怪物>に襲われ、消息を絶つ。

1988 年、米深海調査艇<シーナイト>（潜航深度 4000m、小型ブルーブ<ジェイ・ジェイ>搭載）は水深 1500m で金色に輝く巨大な物体に襲われ、3500m の海底で浮上不能となる。支援母船でウッズホール海洋研究所の海洋調査船<スキャンパー>2300 トンも、全長 30m~40m の金色に輝く化け物を目撃・・・。

なんと、「しんかい 2000」が C-5B<ギャラクシー>と CH-53E<スーパースタリオン>で空輸され、安全率 1.65 の圧壊深度 3300 m を越える救難ミッションに挑む！！

・大石英司「アキレス浮上せず」（1995）のギガマウスを捕食する野球場サイズの座布団状の蔓の化け物

海洋海中観測潜水船<アキレス>は、処女航海で副長ら反乱グループに乗っ取られる。彼らの目的は海底 2000m に沈む巡洋艦「石狩」に積まれた 200 兆円の山下財宝の金塊。2000m での潜水作業が可能な 96 式耐圧潜水スーツで金塊を奪取しようとするが・・・。

体長 20m を越える鯨型の生物『ギガマウス』と、それを捕食する巨大生物（蛍光性の無数の触手を持つ野球場サイズの座布団状の蔓の化け物。普段は海底下に潜っている。触手は長いもので 10 m 近くに達し、先端には吸盤状の口があって 2 枚の鋭い牙がある。）が登場する。

・梅原克文「ソリトンの悪魔」（1998）の<サーペント>

2016 年、音波をエネルギー源とする海中の巨大な存在『サーペント』が、与那国島の沖合に完成したばかりの海上情報都市<オーシャンテクノポリス>を破壊し、日本初の海底採掘プラットフォーム<うみがめ 200>を危機に陥れる。ヘリオス石油の開発部主任の倉瀬厚志、別れた妻でソーナーとオーディオの専門家の劉秋華、7 才の娘の劉美玲の 3 人の運命やいかに・・・。

<オーシャンテクノポリス>は 5 km 四方の正方形デッキ 4 層、浮力タンク付きの脚柱 1 万本で海底に軟着陸させた多脚式軟着底型。寺井精英さんの海洋都市開発研究会の構想そのもの。

・グレッグ・イーガン「ワンの絨毯」（1998）の 2 次元ポリマー生物<ワンの絨毯>

ヴェガの海洋惑星オルフェウスの海には<ワンの絨毯>と呼ばれる浮遊生物が存在していた。それは単細胞生物のコロニーではなく 1 個の超巨大分子、重さ 2 万 5 千トンの二次元ポリマー。二十世紀の数学者、ハオ・ワンが考えたワンのタイルだった・・・。

・大石英司「深海の悪魔」（2000）の翼足類<スピードフィッシュ>

<しんかい 6500>や支援母船<よこすか>のクルーがかっこよく描かれている。このほか、海洋地球研究船<みらい>、自律

型無人探査機、中継ケーブルと衛星による深海実況中継など新しい技術も登場する。

また、地球温暖化と大陸棚斜面のメタンハードレート地層の崩壊、深海の地層内に眠る太古の生物など、地球科学のホットな話題も扱われている。

80 ノットで泳ぎ、器材をも切断してしまう（！）透明な未知の生物。外套膜構造を持つ翼足類（軟体動物だそう）らしきこの生物は「スピードフィッシュ」と名付けられ、群体として行動し、首都圏を壊滅の危機に陥れる。潜水艦救難艇 DSRV の艇長を父親に持つ女子高生とその友人たちが新生児を抱えてパニック状態の首都圏をたくましく生き抜いていくエピソードが織り交ぜられている。

・ジェームズ・ポーリック「腐海」（2001）の渦鞭毛虫の新種<フィステリア・ジャンカージ>

殺人プランクトン、渦鞭毛虫の新種「フィステリア・ジャンカージ」を題材にした SF。海洋調査船<エクセター号>、曳航式海中環境観測システム「メドゥーサ」、「ベティー」、セラミック製の潜水艇<シプリド号>と<ゾエア号>が登場する。

ニセササノハケイソウなどの有毒珪藻類が作るドーモイ酸（神経を攪乱させる強力な酸）、フィステリア・ピッシータ、フィステリア・ピッシモチュア、魚を麻痺させるヘテロシグマ、えらの組織をずたずたにするツノケイソウ、ディクチオカ、食中毒を起こすバプテリウム菌、麻痺性の貝毒を作るアレクサンドリウムなど、恐ろしいものが紹介されている。

・小川一水「群青神殿」（2002）の化学合成生物<ニューク>

八丈島東方 120 km の海上で自動車専用運搬船が消息を絶つ。その 4 日前には、三陸沖で木材チップバルカーが沈没。

神風鉱産探鉱部所有の中深海長距試験艇<デビルソード>は、<えろどらど>（3200 総トン）を支援母船とするメタンハイドレート試験用潜水艇（全長 11m、空中重量 30 トン、運用深度 1600 m、PEFC 電池で連続潜航時間 250 時間）。パイロットの鯛島俊機と探査員の見河原こなみが乗り組む。その<デビルソード>に海上保安庁から潜航調査の協力依頼が無い込む。沈没船には不可解な破壊孔が・・・。

・有川浩「海の底」（2005）の<巨大シナルフェウル・レガリス>

無数の巨大ザリガニが横須賀の汐入を襲い、15 人の少女少女が自衛隊の潜水艦で籠城する。シナルフェウル・レガリスという女王エビで繁殖するエビがモチーフとなっており、相模湾の冷水湧出生態系とかアルビン II とかも絡んでくる。

・韓国映画「グエムル 漢江の怪物」（2006）の<グエムル>（前出）